

令和2年度第2回磐田市歴史文書館運営審議会 資料説明

1 非現用文書の受入選別状況について

<第1表>

●搬入数

令和2年4月から12月までの数値であるが、前年度末の数値より362件増の1,988件。

●選別数

	2次選別	3次選別	計
総選別数	2,131	7,389	9,520
実選別数	2,103	4,844	6,947
返却数	28	2,545	2,573

総選別数は、9,520件。うち2,573件の返却があり、実選別数は6,947件。

なお、返却数2,573件は、選別開始以来、最高値である。これは、工事に関する書類(特に上下水道工事・道路改良工事)において、2次選別実施後も原課から移管されたままの状態でも保管されていたので、3次選別実施前に原課で必要書類の有無の確認作業を依頼したことによるものである。(主に工事及び設計委託契約書を返却。)残った工事写真や出来形管理表(舗装の面積・マンホールの設置高・配管の設置高が設計値と比較してどうであったかという内容のもの)等は歴史文書館管理運営要領の評価選別の基準に基づき、殆どを廃棄処分とした。このような案件が多かったことにより選別数が昨年より大幅に伸びた。また、職員課から業務支援員2名を約1ヶ月派遣してもらい、目録作りを依頼したことで選別作業に専念できたことも選別数が伸びた要因である。

●選別結果及び公文書収蔵件数

選別数についての説明のとおり、工事関係書類の殆どが廃棄処分となったこと等により全部保存や一部文書のみ保存の数が減となった。

収蔵件数については、12月末時点で前年度末より4,483件の減となっている。

<第2表>

●公文書収蔵件数

	令和元年度末	令和2年12月末	比較
新磐田市	11,366	10,960	▲406
旧磐田市	12,801	11,172	▲1,629
旧福田町	3,495	3,341	▲154
旧竜洋町	8,570	6,963	▲1,607
旧豊田町	4,037	3,484	▲553
旧豊岡村	4,950	4,816	▲134
計	45,219	40,736	▲4,483

新磐田市以下全ての地区において、収蔵件数が減という状況。

2 歴史文書館収蔵件数について

＜第3表＞

●公文書

旧役場文書は、前年度末と比較して377件の増であるが、これは既存の目録を細分化したことにより数字上、増となったものである。一方、新磐田市公文書及び旧市町村公文書については、選別作業が進み4,483件の減。全体では4,106件の減という状況である。

●地域史資料

旧磐田市地域史資料191件及び旧豊田町地域史資料96件の整理作業が進み、287件の増という状況である。

●行政資料

今年度、行政で作成した資料の受入及び会議で配布された冊子等をこれまで公文書として保管していたが行政資料として管理をしていくこととしたため、全体で201件の増という状況である。

●地図・絵図

全体で8件増という状況である。

●新聞記事 及び 古書籍

増減なし。

●一般図書

他県公文書館の年報等の受入があり、全体で83件の増という状況である。

●CD・DVD 等

行政資料として管理していくこととしたものがあり、31件の減という状況である。

●写真

旧磐田市及び旧竜洋町において目録を細分化したこと、また、過去に移管されていた旧磐田市の広報紙について目録化したことにより全体で438件の増という状況である。

●土質標本

原課で土質調査データが保管され、標本のみ歴史文書館で保管していた。原課へ確認したところ、今後、工事の際に土質状況を把握する必要があるが生じた場合、調査データを参考にするので標本は不要であるとの回答。歴史文書館管理運営事項に基づき、廃棄とした。

●総収蔵件数

令和2年12月末現在における総収蔵件数は、195,282件。公文書の評価・選別作業が進んだことなどにより、同年3月末と比べ、3,250件の減という状況である。

3 企画展について

ア 第24回企画展「磐田の産業～磐田の近代化を支えた茶、たばこ、甘藷切干、そして銀行～」

(ア) 今回の企画展は、今年度第1回審議会において、「歴史文書館展示室のみでは、展示室がせまいのではないか。」との意見があり、支所2階205会議室を借用し、2部屋で展示会を開催した。このため、内容については充実したものとなり、来館者からもわかりやすいとの意見を頂戴した。

しかし、コロナ禍の中ということで、来館者は昨年より100人減であった、中央図書館においても例年は500人を超えるところを400人台にとどまった。図書館自体の入館者が2割減となったことも大きく影響したものと思われる。

また、歴史学習会は図書館視聴覚ホールの収容定員を40名としたところ、聴講者は34人であった。

(イ) 平常展「歴史文書館の紹介と過去の企画展」

前期と後期に分けて開催。前期の来館者は51人で、コロナ禍の影響を受け減少した。後期は現在、開催中である。

4 レファレンス利用状況について

6月から始まった「磐田歴史検定」で関係資料の照会に訪れる方が多かった。今年度は残り3か月となるが、コロナ禍の影響もあり、総利用数は減少が見込まれる。

5 各種事業について

今年度は4月から6月までの間は、新型コロナウイルス感染症の影響で、講座が延期または中止となり、講師派遣、見学等はなかったが、7月以降、徐々に再開し、併せて11件の職員派遣要請があった。特に、講座については、定員数を制限したことで、聴講できなかった多くの方々からの要望に応え、「光明電鉄」の講座)、2回目を実施した。

このほか、今年度、目録検索システムを導入することで、レファレンスに対して希望の資料を瞬時に検索することが可能となる。運用は来年度からである。

また、観光協会との共催事業により、「古文書解読初級講座」を6回開催することができ、21人の方が熱心に学んだ。定員を制限する必要があり、抽選としたが多くの方が古文書解読に対し、興味を持っていることがわかった。今後の古文書ボランティア養成に力を入れていきたい。

6 令和3年度事業計画(案)について

例年どおり。

7 令和3年度企画展(案)について

事務局では、(仮)「歴史文書から見た磐田の近代教育」を予定しています。